

第59回 東海財界倶楽部例会

「縁もゆかりもない」は「目に見えないご縁」で結ばれている

開催日：2024年6月4日 開催場所：ホテルオークラレストラン

第59回東海財界倶楽部例会が4日、名古屋市東区・ホテルオークラレストランで開かれ、財務省東海財務局長、渡邊輝さんが「最近の経済情勢などについて」と題して講演。参加した会員ら約30人は熱心に耳を傾けていた。

渡邊さんは初めに財務局の主な業務について説明。①地域とのコミュニケーションや②財政業務③金融業務④国有財産の管理などについて述べた。①は地域経済動向の調査や学校、地域との連携②は国の予算が適正・効率的に使われているかを現地に行き確認しつつ、来年度予算に活かすこと、また災害復旧などでも現地に出向いて金額を決めたり、道路などインフラへの財政投融資資金の具体的貸し付けを決めるなど③は金融庁から委託される形での地域金融機関の検査・監督④は国有財産の有効利用や売却など。

次いで東海財務局管内（愛知、岐阜、三重、静岡県）の経済情勢について解説。

今年4月の総括判断は「回復の動きに一服感がみられる」で前回（1月）に比べ下方修正。要点は「個人消費は持ち直しているが生産活動は足踏み状態で雇用情勢は緩やかに改善」というもの。個別に見ていくと一。個人消費はスーパー、コンビニ、百貨店などは好調・持ち直しているが、大型家電や乗用車は弱まっている。生産活動は、自動車関連は2月の稼働停止や半導体不足が解消したものの足踏み状態。生産用機械は価格の上昇や大型化で弱い動き一など。

設備投資は全産業で令和5年度見込み26.4%増と全国の9.3%より大。自動車産業のエンジン車から電気自動車へのシフトからライン改修を計画しており、運輸も車の購入や無線システムの更新などで大きくなっている。住宅建設について、分譲戸建では受注の低迷と在庫から着工は抑えた状態で、分譲マンションは土地の確保済みから着工は進むが、在庫は増加傾向。貸家は受注が安定し着工も堅調一などと述べた。さらに賃上げ動向（正規雇用）や人件費の価格転嫁の情況にも触れた。



渡邊財務局長の講演に耳を傾ける会員

続いて地域連

携については「財務局は権限を持っているわけではなく、地域経済が真ん中にあるのだが、経営課題について相手の考え方がわからず、乗り越えられないケースがあり、そんな時に一緒にやりましょうと力を合わせて取り組む事業者支援に10年ほど力を入れています」と説明。

最後に、自らの経歴について触れ、大蔵省（現財務省）の戒めを知る（敬意の対象はポストで個人ではない。省益しか考えず主導権争いに陥る一など）前半や学びが多かった人事関係課長時代などを興味深いエピソードを交えて述べた。その上で今の仕事に生かすには「地域の人になり切って国の仕事をする事」などと語った。

エピソードとして語られたひとつ。北海道勤務時代に『月形』という地名を知る。記憶の片隅に残しつつ数年後、福岡勤務を迎える。その時点では「縁もゆかりもない」土地と思っていたが、ある日入った天神の書店で偶然発見した書籍のタイトル『評伝 月形潔（北海道を拓いた福岡藩士）』を目にする。そして北海道勤務時代に知った地名が遙か遠い福岡の地から来た藩士に由来するものと知る。「縁もゆかりもない」と思いがちな土地や人間関係の中にも「目に見えないご縁に気づいていないだけ」という『むすび』の大切さを語って講演を締めくくった。

その後和やかな懇談に移り、乾杯の音頭は名古屋韓国領事館の金星秀総領事が行った。



渡邊輝 東海財務局長



乾杯の音頭をとる金星秀総領事